



## ～戮力協心～

NO.22  
その1

2024年2月26日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

# 2024JR総連春闘 第2回交渉～組合要求の根拠～

中央本部は2024年2月26日に「24春闘第2回交渉」を行ないました。

## 組合要求の根拠

- ・2023年の消費者物価指数は平均で3.2%に上昇。23春闘において平均1000円(0.35%)のベースアップと昇給額表に基づく昇給合わせて1.93%の賃上げに留まっており、組合員は毎月1.27%(平均3810円)の実質賃金低下し、生活実態は厳しくなっている。生活にゆとりがなければ、仕事に対するモチベーションは上がらない！
- ・2023年度の期末手当は合計3.25カ月であり、2022年度と比べれば0.09カ月低くなっている。業績を理由に低額回答を示したが、私たちのにとっては生活給であり、物価上昇分を期末手当で補填して生活している！
- ・会社は今年度見通しとして、経常利益単体△69億円、連結△56億円とし、3期連続の赤字決算に危機感を示すが、私たちは「新賃金の申し入れ」を行なっており、次年度はダイ改や営業施策が実を結び、黒字と転換するのであれば「原資がない」というのは誤魔化しだ！
- ・2024年問題が迫り、鉄道貨物輸送に追い風が吹いているが、要員不足ではその期待に応えることはできない。特に運転士不足は喫緊の課題である。
- ・離職率は、昨年度は1.94%で今年度は2%超えということで会社も危機感を示し、離職防止対策を様々してきたと言うが、我々にとっては不十分である。職場の声に耳を傾け、職場の声に沿った対策をするべき！
- ・離職防止対策として、「エンゲージメント高めていく事」と言うが、認識がズレている！私たちは、生きていくための生活費を稼ぐために働いているのが現実であり、エンゲージメントは二の次で、認識のズレを正さなくては、対策もズレてしまう！
- ・青年部員の将来展望を見出すためにも、賃上げは待ったなし！会社も「生活給はベア」と言っており、青年部員の期待は大きい！
- ・青年部は昨年『率要素』が入ったことにより、100円という差をつけられた。青年部は「定額回答」を強く求めている！次回第3回交渉の会社の考え方では額で示されるためにも、社内議論を！

## その2へ続く!!

JR貨物労組青年部